

【鹿沼市】 校務 DX 計画

1 校務 DX 化の現状と課題

本市では、令和3年度より校務支援システムを導入及び教職員のタブレット端末の利用を開始した。校務支援システムは、オンプレミスで運用しており、学校現場において教務・保健・学籍・成績管理・児童生徒の個人記録など様々な校務で利用している。また、教職員のタブレット端末については児童生徒と同じアプリケーションやコミュニケーションツールが利用可能である。

これらのデジタルツールの導入により、従来、紙で行っていた業務がデジタルベースになり、業務が効率的になってきている。また、教職員を対象とした ICT 活用研修会や ICT 支援員による各校への個別支援を行っており、その成果として、コミュニケーションツールを活用した情報共有や共同編集の実施、授業支援ソフトの活用による業務改善が図られてきた。

しかし、「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」（文部科学省令和5年11月実施）の自治体別達成状況〔確定値〕の結果から、本市は学校向け調査の点数が全国平均点を下回っている。その原因としては、校務系・学習系端末のネットワーク構成や教職員の ICT ツール活用の個人差が課題となっている。

2 今後の課題解決方針

本市では、現状の課題を踏まえ、文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化を実現するために、次に掲げる事項を重点的に推進する。

（1）次世代の校務支援システムの検討

教職員の柔軟かつ安全な働き方を可能とするために、学校現場における課題・ニーズ等の把握を行いつつ、ゼロトラストの考え方にに基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・市教育委員会・関連業者と連携を図りながら、校務系・学習系ネットワークの統合及びパブリッククラウド上での運用を前提とした次世代の校務支援システムの整備に向けた検討を行う。

（2）各種クラウドツールの活用

教職員それぞれの ICT 活用能力に応じた研修会の実施と ICT 支援員と連携を図った各校への個別支援などを行うことで、校務支援システムやコミュニケーションツール、授業支援ソフトの効果的な活用を推進し、名簿情報の不必要な手入力作業の一掃や押印の廃止など業務の改善に取り組んでいく。

また、業務においてコミュニケーションツールやメールの利用を促進することで、災害やネットワークの不具合時など緊急を要する場合を除き、FAX の利用の原則廃止に取り組む。